

報 道 発 表 資 料

平成19年 3月29日

所属名	所属長名	部局長等名	担当者 職・氏名	連絡先
公立大学法人 山口県立大学	理事長 えさと けんすけ 江里 健 輔	経営企画室長 あ の てつお 阿野 徹生	主査 かじま さとし 梶間 敏	083-928-5467
発表内容の 関係地域	全県、岩国、柳井、周南、山口、防府、宇部、山陽小野田、 下関、長門、萩、首都圏			

(1) 平成19年度当初予算について

<詳細別紙 1 >

部局長等名	担当者 職・氏名	連絡先
経営企画室長 あ の てつお 阿野 徹生	主査 かじま さとし 梶間 敏	083-928-5467

(2) 平成19年度組織・人事について

<詳細別紙 2 >

部局長等名	担当者 職・氏名	連絡先
経営企画室長 あ の てつお 阿野 徹生	主査 まえだ やすのり 前田 安典	083-928-3417

(3) A O入試の実施について

<詳細別紙 3 >

部局長等名	担当者 職・氏名	連絡先
入学企画室長 あいほら つぎお 相原 次男	教務グループ まつうら よしひろ 主査 松浦 芳裕	083-928-5637

(4) 大学基準協会認証評価結果について

<詳細別紙 4 >

部局長等名	担当者 職・氏名	連絡先
教育研究活動等点検 評価委員会委員長 いちむら たかお 市村 孝雄	経営企画室 かじま さとし 主査 梶間 敏	083-928-5467

(5) 『YPUクッキー』の開発について

<詳細別紙 5 >

部局長等名	担当者 職・氏名	連絡先
生活科学部栄養学科 ひとみ えり 助教授 人見 英里	同 左	083-928-2498

平成19年度

公立大学法人山口県立大学

当初予算記者発表資料

平成19年3月29日

【問合せ先】
公立大学法人山口県立大学
経営企画室
TEL 083-928-5467
担当 あ の かじま
阿野 梶間

1 予算編成方針

平成19年度は、平成18年度に地方独立行政法人に移行した本学が、法人化後に策定した中期計画（平成18年度～23年度の事業計画）の着実な達成に向け、計画に掲げる様々な取組みを本格化・加速化していかねばなりません。

こうしたことから、法人化後2年目となる平成19年度予算は、これを「中期計画実行元年予算」と位置づけ、予算編成に当たっては、

- 「教育・研究」の活性化
- 「地域貢献・地域連携」の強化
- 「学生支援」の充実

を推進することを最重点とし、計画的かつ有効的な予算配分を行うことを基本方針として編成を行いました。

また、こうした基本方針のもとでの個別の事業の予算化に当たっては、事業効果の有効な発現を図るため、

- ① 中期目標・中期計画の着実な達成
- ② 学部学科再編による教育研究のさらなる充実
- ③ 授業料改定に見合う教育内容及び学生サービスの充実に資する事業への積極的・重点的な配分に努めました。

2 予算の概要

(1) 予算規模

予算規模は、20億6百万円で、前年度当初予算(20億2百万円)に比べ、0.2%増(4百万円増)となっています。

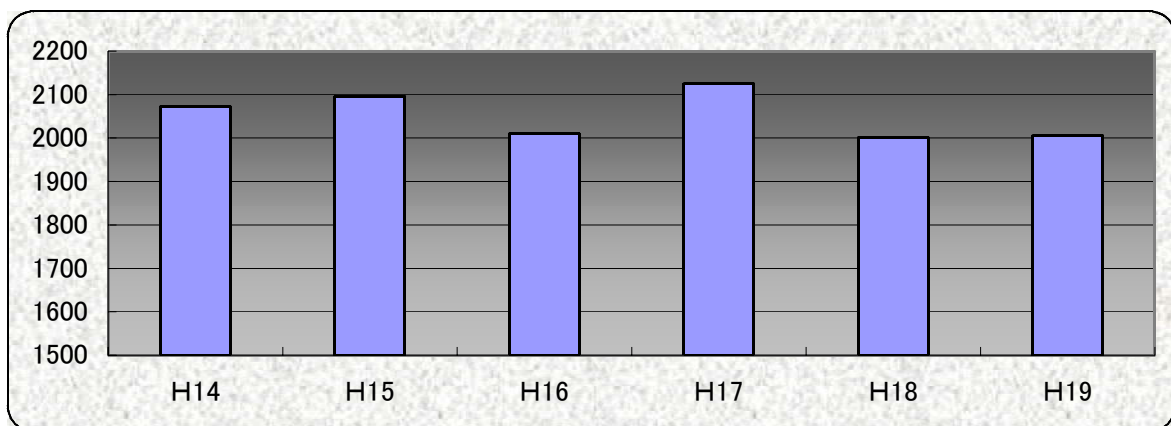
(単位 千円)

区 分	平成19年度 A	平成18年度 B	A - B = C	C / B (%)
予 算 規 模	2,006,523	2,002,018	4,505	0.2

<参考>当初予算規模の推移

(単位 千円)

平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
2,072,308	2,096,847	2,009,620	2,144,587	2,002,018	2,006,523



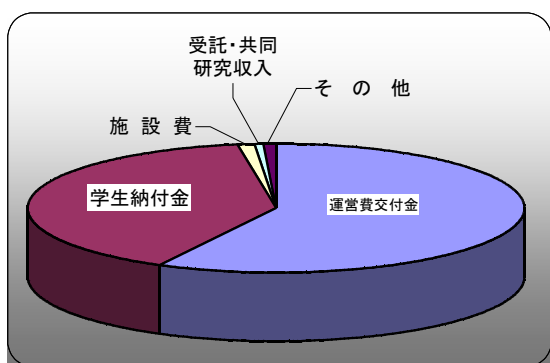
※1 平成17年度までは県予算（法人化前）、平成18・19年度は法人予算。

※2 平成17年度は、独立行政法人移行経費、大学院(博士課程)設置経費(146,775千円)を含む。

(2) 収入予算の概況

(単位 千円、%)

区 分	平成19年度A		平成18年度B		A - B = C	C / B
	予算額	構成比	予算額	構成比		
運営費交付金	1,158,520	57.7	1,201,000	60.0	△ 42,480	△ 3.5
施設費	20,000	1.0	21,000	1.0	△ 1,000	△ 4.8
学生納付金	798,303	39.8	757,476	37.8	40,827	5.4
受託・共同研究収入	12,000	0.6	10,000	0.5	2,000	20.0
その他	17,700	0.9	12,542	0.6	5,158	41.1
合 計	2,006,523	100.0	2,002,018	100.0	4,505	0.2



◆運営費交付金と学生納付金とで収入予算総額の97.5%を占めています。

◆運営費交付金は、中期計画期間中の総額（62億円）の範囲内で、法人の財政計画に沿って、県から交付される平成19年度分の額として、11億58百万円(△3.5%)を見込んでいます。

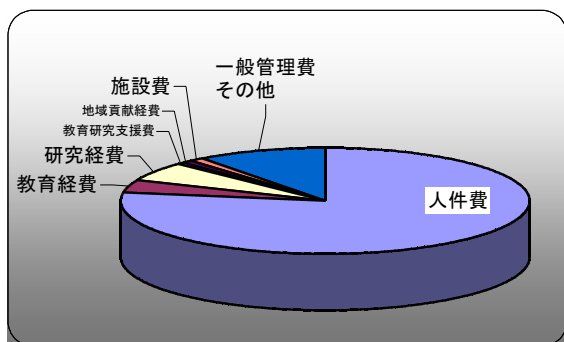
◆学生納付金は、授業料改定により約20百万円、定員増により約10百万円の増収を見込み、5.4%増となっています。

◆受託・共同研究収入は、中期計画の設定（期間中に倍増）を踏まえ、20%増の獲得を目指しています。

(3) 支出予算の概況

(単位 千円、%)

区 分	平成19年度A		平成18年度B		A - B = C	C / B
	予算額	構成比	予算額	構成比		
人 件 費	1,553,738	77.4	1,564,837	78.2	△ 11,099	△ 0.7
教育経費	82,078	4.1	70,087	3.5	11,991	17.1
研究経費	116,844	5.8	116,890	5.8	△ 46	0.0
教育研究支援費	8,797	0.4	8,159	0.4	638	7.8
地域貢献経費	18,536	0.9	15,737	0.8	2,799	17.8
施設費	20,000	1.0	21,000	1.0	△ 1,000	△ 4.8
一般管理費その他	206,530	10.3	205,308	10.3	1,222	0.6
合 計	2,006,523	100.0	2,002,018	100.0	4,505	0.2



◆人件費が支出予算総額の約3/4(77.4%)を占めています。なお、人件費の約80%(12億38百万円)は教員人件費となっています。

◆教育経費は、学部学科再編等に係る教育内容の充実や、学生利用施設の環境改善を図るための経費を措置したことから、17.1%増となっています。

◆地域貢献経費は、受託・共同研究の拡大を見込み、17.8%増となっています。

3 重点・新規事業など

(1) 教育・研究

★特色ある新たな教育課程の編成

学部学科再編に伴い、新たな教育課程を編成し特色ある教育を行います。

＜特色ある授業科目の事例＞

全学共通教育

【基礎セミナー】

大学での学習に必要な基礎的素養（自立的学習態度や批判的思考能力）の養成や、健康で豊かな大学生活を実現するための基盤となる教育を、全学（1年次）必修科目として開講する。

【キャリアデザイン】

グループワークや他者とのコミュニケーションを通して、自己認識を深め、自分の職業・生きがいなどについて、幅広い豊かな将来設計を描くことができる力を習得させる。

国際文化学部

【中国語、韓国語】

効果的な語学力習得に向け、従来の週1回開講を週2回開講とし、さらに20人程度の少人数クラス編成・能力別クラス編成での授業を行うことにより、語学教育の充実を図る（英語については実施済）。

看護栄養学部・社会福祉学部

【ヒューマンケア入門】

メタボリック症候群等身近な問題を素材に看護・栄養・福祉の連携と協働の実践について学び、対人援助能力養成の基盤を、両学部の連携教育として開講する。

★教育研究力向上対策 722千円

教員の教育能力の向上や研究活動の促進を図るため、教員を対象とする研修制度等を拡充します。

新①教育能力向上に資する学外研修の充実 604千円

教育研究における他大学の優れた取組事例を紹介するフォーラムへの参加(3年に1度)を全教員に義務付けること等により、本学での取組みの促進と、こうした取組みに対する文部科学省からの補助金（GP）採択を目指します。

※GP：文部科学省が行う「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」、「特色ある大学教育支援プログラム」等の選定事例及びこれに係る大学改革推進等補助金

新②外部資金研究費獲得のための学内研修の充実 118千円

科学研究費補助金をはじめとする外部資金研究費の採択率向上のため、効果的な応募方法や申請方法などについて、外部講師による教員研修を学内で定期的に行います。

★ 大学院生学会発表支援 300千円

新 大学院生の総合的な研究能力の育成・向上のため、学会等における学術発表の機会増加に資する支援制度を創設します。

▼ 国内5万円、国外10万円を限度とした学会等発表参加費等に対する助成

★ 図書館利用利便性向上 695千円

新 平日夜間(19:00~22:00)及び土曜日(9:00~22:00)の特別利用(閲覧、複写、情報検索サービスのみ)を日曜日(9:00~22:00)にも拡充し、併せて自動貸出システムの導入により特別利用時の貸出サービスを新たに開始するなど図書館利用の利便性向上を図ります。

★ 教授研究費の配分見直し

研究費のうち特別研究費(競争的研究費)の配分割合を高めることにより、学内の研究活動を促進し、教員の研究能力の向上を図ります。

	平成19年度 (前年度比)		平成18年度
▼ 個人研究費及び学部共通研究費	74,000千円程度	△10%程度 ←	82,461千円
▼ 特別研究費(競争的研究費枠)	41,500千円程度	+25%程度 ←	33,085千円
合 計	115,500千円程度		115,546千円

(2) 地域貢献・地域連携

新★ 住民主導型介護予防活動支援事業 1,711千円

地域住民による介護予防活動の促進を目的に、保健・福祉・栄養の専門職(保健師、ソーシャルワーカー、管理栄養士など)の協力を得ながら、介護予防活動を地域住民が主導的・自主的に継続実施していくための指針となる「住民主導型介護予防活動支援マニュアル」を、地域課題解決に資する本学発の提案型研究事業の成果として策定し、これに基づいたモデル事業の実施を関係団体や行政機関に提案します。

平成20年度以降、関係団体・行政機関等と本学との連携によるモデル事業の実践(共同研究・受託研究等)を企図する。

【事業内容】

- ▼ 産学公連携・学内関係学部連携による研究組織体制の構築
- ▼ 先進事例の取材・調査・研究
- ▼ 「住民主導型介護予防活動支援マニュアル」の策定
- ▼ モデル事業実施の提案

★各種講座（オープンカレッジ）の拡充

区 分	平成19年度	平成18年度
▼ 公 開 講 座	5 講座 (5市)	6 講座 (5市町)
▼ 公 開 授 業	6 講座	4 講座
▼ 公 開 講 演 会	1 講座	1 講座
▼ サテライトカレッジ	13 講座 (9市町)	9 講座 (6市)
▼ やまぐち桜の森カレッジ	4 コース	4 コース
▼ キャリアアップ研修	3 講座	2 講座
▼ 合 計	32 講座等	26 講座等

公開講座	「世界への扉を開こう」「みんなちがってみんな幸せ」「豊かな暮らしづくり」「健康な生活をつくる」「やまぐちの文学」
公開授業	「生命と生活の質特論」「環境問題」「基礎セミナー(環境)」「基礎セミナー(健康)」「女性学」「医学」
サテライトカレッジ	「健康に・上手に生きるために」「環境アドバイザー講座(発展編)」「子育て実務講座」「やまぐち地域価値創造セミナー2007」「もっともっと世界を知ろう!」「命と健康~ようこそ、ヒーリング・癒しの世界へ~」など
キャリアアップ研修	「軽度発達障害の理解と対応」「看護職キャリアアップ講座」など

※講座の名称・内容はいずれも現時点での予定・仮称であり、今後、変更することがあります。

(3) 学生支援

★教育内容及び学生サービスの充実

学生生活の活性化、学生利用施設の改善、教育内容の充実など学生が直接利便を享受できる事業・事項への予算の優先配分を行い、学生サービスの拡充を図ります。

▼ 学生表彰	110千円	
▼ 学生生活支援事業	500千円	
▼ 大学院生学会発表支援	300千円	
▼ グローバル学生交流拡充	3,677千円	
▼ 交換留学生支援等	657千円	
▼ 図書館利用利便性向上	695千円	
▼ 健康サポートセンター利用改善	1,212千円	
▼ 食堂設備改修	1,110千円	
▼ 課外活動施設(有隣館)改修等	1,451千円	
▼ エコアクション21の活動活性化	1,732千円	
▼ 教育内容充実に伴う新科目開講(準備)	2,442千円	
▼ 教育内容充実に伴う非常勤講師増	9,155千円	
▼ 実習用備品等の充実	2,387千円	など

★＜参考＞授業料改定の概要

▼ 授業料等の改定＜平成15年の改定以来5年ぶり＞

名 称	区 分	平成19年度	平成18年度
授 業 料	学 生	535,800円/年	520,800円/年
	研 究 生	356,400円/年	346,800円/年
科目等履修料	科目等履修生	14,800円/単位	14,400円/単位

▼ 授業料等改定影響額 約 20,000千円

★ 学生表彰 110千円

新 学業・研究における優秀者、課外活動において成果を挙げた者、社会貢献における功績者、人命救助等に尽力した者など、顕彰すべき学生に対する表彰制度を創設します。

★ 学生活動支援事業 500千円

学生の自主企画による課外活動を支援し大学の活性化に資するため、平成18年度に試行実施した「YPUドリームアドベンチャープロジェクト」を本格実施します。

★ 学生利用施設的环境整備 3,773千円

新 健康サポートセンター、食堂、課外活動施設(有隣館)など、学生が利用する施設の改善・改修等利用環境の整備を行います。

- ▼ 健康サポートセンター利用改善 1,212千円
- ▼ 食堂設備改修 1,110千円
- ▼ 課外活動施設(有隣館)改修 1,451千円

★ 交換留学生地域交流 188千円

新 交換留学生※の地域交流の促進や、地域交流企画(文化ウィーク)の実施により、交流環境の整備を図り、地域の国際化にも寄与します。

- ▼ 交換留学生地域交流促進
- ▼ 文化ウィーク企画の実施

※ 交換留学生：学術交流協定を締結している海外の6大学からの留学生(期間1年間)

(4) その他(大学運営など)

★ 大学広報の充実 13,000千円

新 大学広報体制を全般的に見直し、ホームページ・広報誌・ビデオなどの各種媒体を活用した効果的な広報体制を確立し、戦略的な広報を展開します。

- ▼ 理事長(学長)による定期的な情報発信(定例会見の実施)
- ▼ 大学広報誌(季刊)の創刊による総合的な情報発信
- ▼ WEB関係広報の見直し(ホームページのリニューアルなど)
- ▼ PRビデオ制作・配信

★ エコアクション21の活動活性化 1,732千円

本学は平成18年9月に国公立大学としては初のエコアクション21の認証を取得したところですが、平成19年度においても環境教育や環境活動に係る学生・教職員一体となった積極的な取組を推進します。

- 新**
- ▼ エコプロダクツ展(主催(社)産業環境管理協会ほか)への出展による本学の取組のPR
 - ▼ 講演会の開催
 - ▼ エコアクション21中間審査
 - ▼ 環境報告書の発行
 - ▼ EA21学生委員会活動費(廃棄物減量化、学内啓発活動など)

★光熱水費節減

環境活動(エコアクション21)の動きとも連動し、持続的な環境負荷の低減につながる大学運営に努め、光熱水費を5%節減を目指します。

光熱水費 平成19年度 (前年度比) 平成18年度
54,806千円 Δ5.0% ← 57,690千円

★人件費の状況

▼常勤役職員

平成19年度		
役職員数	予算額	(前年度比)
153名	1,400,238千円	Δ1.6%

平成18年度	
役職員数	予算額
157名	1,423,613千円

←

▼非常勤講師

平成19年度	
予算額	(前年度比)
46,740千円	24.4%

平成18年度
予算額
37,585千円

←

※学部学科再編に伴う開講科目の増加等による

平成19年度組織・人事について

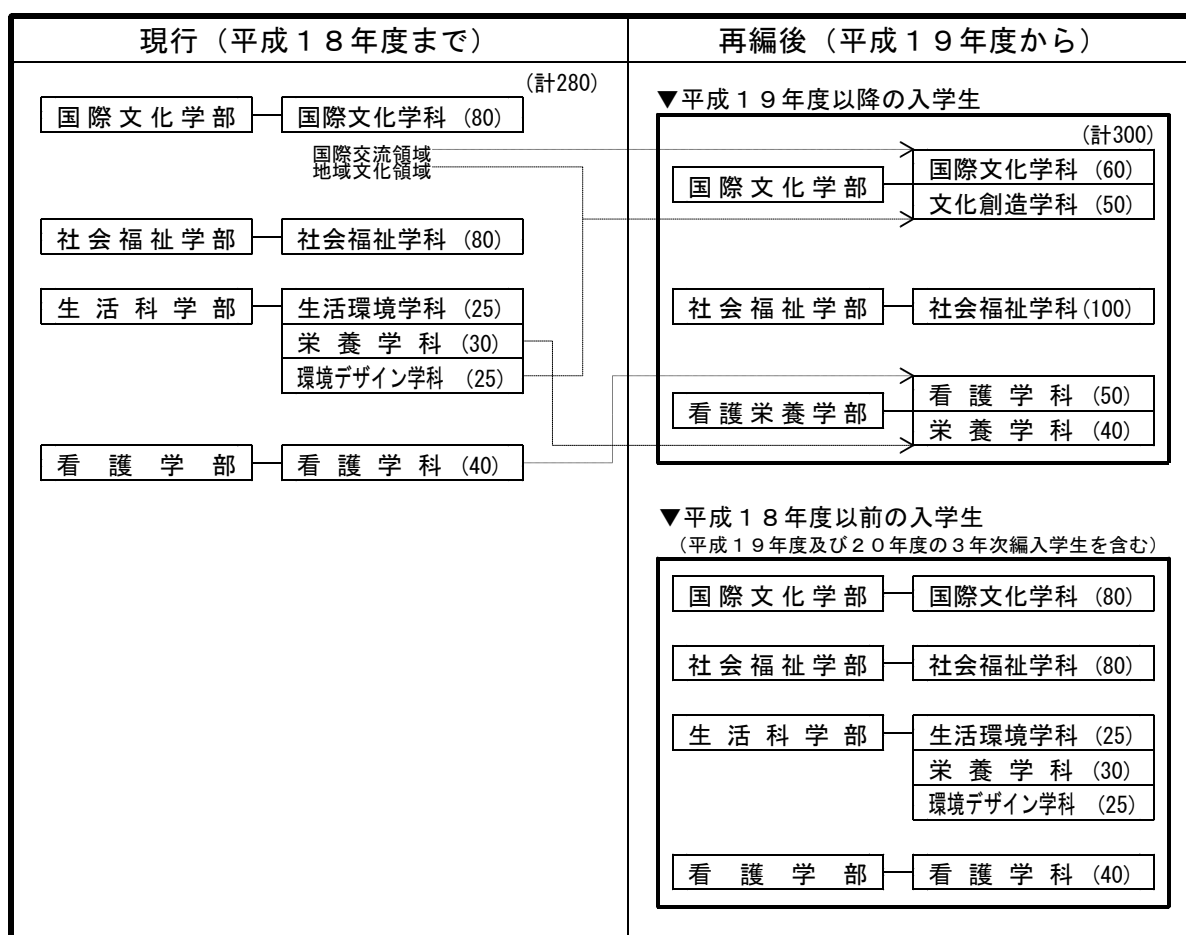
平成19年3月29日 公立大学法人山口県立大学

法人化後2年目となる平成19年度は、中期計画達成に向けた本格的な実行元年として、中期計画の着実な実行を支える組織体制の整備を図るとともに、より機動的で戦略的な業務運営が可能となるよう、適切な人員配置を行います。

1 組織体制の整備

(1) 学部・学科の再編

学問の進展や社会の要請に的確に対応した特色ある教育研究の効果的、効率的な展開を図るため、学部・学科等の再編を実施します。



() は入学定員（3年次編入学は除く）

(2) 共通教育機構の設置（総合教育機構の改組）

全学共通教育と学部専門教育の有機的連携を強め、全学生が効果的、効率的、系統的に全学共通教育を受講できるよう、新たなカリキュラムを編成し、平成19年度より実施することに伴い、既存の総合教育機構を再編して、全学共通教育科目の管理運営主体にふさわしい自立・機動的な教育組織として、「共通教育機構」を設置します。

(3) 専攻の再編（大学院）

社会福祉領域、看護領域、栄養領域の連携を通じて、地域包括的な支援能力をもつ高度専門職業人の養成等に関する社会的要請に対応できるよう、健康福祉学専攻と生活健康科学専攻の2専攻を健康福祉学専攻に統合します。

現行（平成18年度まで）	再編後（平成19年度から）																																		
<table border="1"> <tr> <td>大学院修士課程(24)</td> <td>大学院博士後期課程(3)</td> </tr> <tr> <td>国際文化学研究科</td> <td></td> </tr> <tr> <td>国際文化学専攻 修士課程(10)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>健康福祉学研究科</td> <td>健康福祉学研究科</td> </tr> <tr> <td>健康福祉学専攻 ※博士前期課程(7)</td> <td>健康福祉学専攻 博士後期課程(3)</td> </tr> <tr> <td>生活健康科学専攻 ※博士前期課程(7)</td> <td></td> </tr> </table>	大学院修士課程(24)	大学院博士後期課程(3)	国際文化学研究科		国際文化学専攻 修士課程(10)		健康福祉学研究科	健康福祉学研究科	健康福祉学専攻 ※博士前期課程(7)	健康福祉学専攻 博士後期課程(3)	生活健康科学専攻 ※博士前期課程(7)		<p>▼平成19年度以降の入学生</p> <table border="1"> <tr> <td>大学院修士課程(20)</td> <td>大学院博士後期課程(3)</td> </tr> <tr> <td>国際文化学研究科</td> <td></td> </tr> <tr> <td>国際文化学専攻 修士課程(10)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>健康福祉学研究科</td> <td>健康福祉学研究科</td> </tr> <tr> <td>健康福祉学専攻 博士前期課程(10)</td> <td>健康福祉学専攻 博士後期課程(3)</td> </tr> </table> <p>▼平成18年度以前の入学生</p> <table border="1"> <tr> <td>大学院修士課程(24)</td> <td>大学院博士後期課程(3)</td> </tr> <tr> <td>国際文化学研究科</td> <td></td> </tr> <tr> <td>国際文化学専攻 修士課程(10)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>健康福祉学研究科</td> <td>健康福祉学研究科</td> </tr> <tr> <td>健康福祉学専攻 ※博士前期課程(7)</td> <td>健康福祉学専攻 博士後期課程(3)</td> </tr> <tr> <td>生活健康科学専攻 ※博士前期課程(7)</td> <td></td> </tr> </table>	大学院修士課程(20)	大学院博士後期課程(3)	国際文化学研究科		国際文化学専攻 修士課程(10)		健康福祉学研究科	健康福祉学研究科	健康福祉学専攻 博士前期課程(10)	健康福祉学専攻 博士後期課程(3)	大学院修士課程(24)	大学院博士後期課程(3)	国際文化学研究科		国際文化学専攻 修士課程(10)		健康福祉学研究科	健康福祉学研究科	健康福祉学専攻 ※博士前期課程(7)	健康福祉学専攻 博士後期課程(3)	生活健康科学専攻 ※博士前期課程(7)	
大学院修士課程(24)	大学院博士後期課程(3)																																		
国際文化学研究科																																			
国際文化学専攻 修士課程(10)																																			
健康福祉学研究科	健康福祉学研究科																																		
健康福祉学専攻 ※博士前期課程(7)	健康福祉学専攻 博士後期課程(3)																																		
生活健康科学専攻 ※博士前期課程(7)																																			
大学院修士課程(20)	大学院博士後期課程(3)																																		
国際文化学研究科																																			
国際文化学専攻 修士課程(10)																																			
健康福祉学研究科	健康福祉学研究科																																		
健康福祉学専攻 博士前期課程(10)	健康福祉学専攻 博士後期課程(3)																																		
大学院修士課程(24)	大学院博士後期課程(3)																																		
国際文化学研究科																																			
国際文化学専攻 修士課程(10)																																			
健康福祉学研究科	健康福祉学研究科																																		
健康福祉学専攻 ※博士前期課程(7)	健康福祉学専攻 博士後期課程(3)																																		
生活健康科学専攻 ※博士前期課程(7)																																			

() は入学定員

※→平成17年度以前入学生は「修士課程」

2 適切な人員配置

(1) 広報業務の一元化

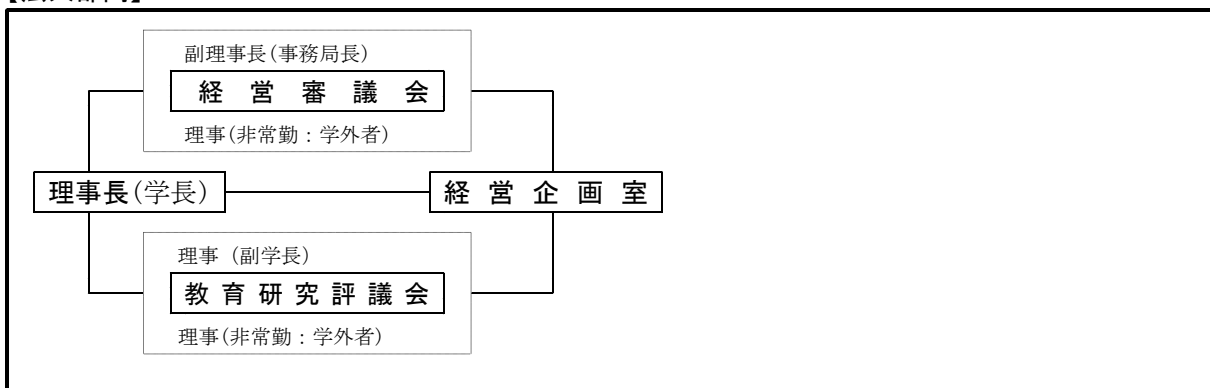
戦略的・重点的な広報活動を推進するため、法人及び大学の広報業務に関する総括的処理を経営企画室に一元化し、所要の人員配置を行います。

(2) 附属地域共生センターの機能強化

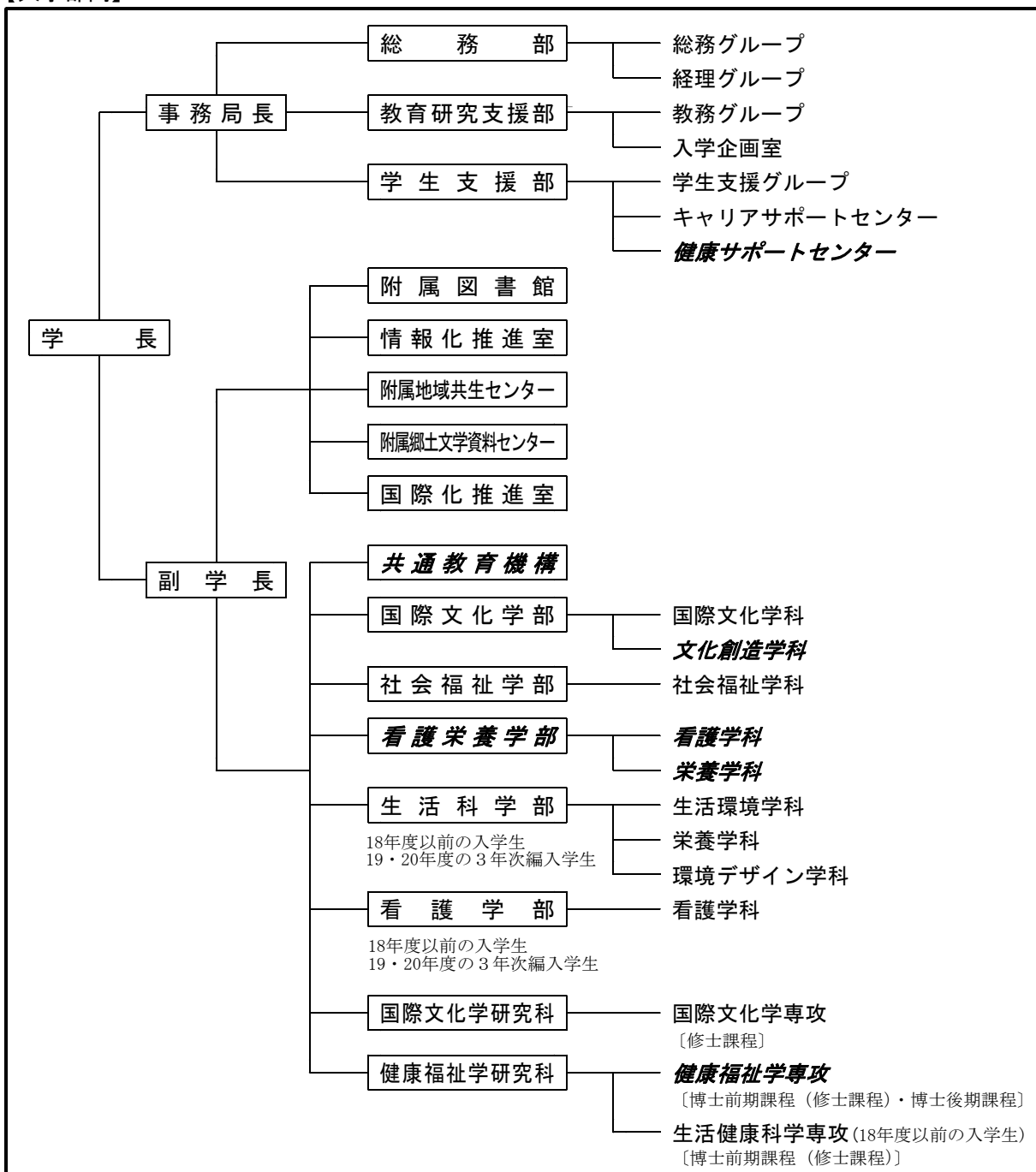
学外に向けたより機動的なセールスの展開や、センター内の円滑な業務執行が可能になるよう、3つの業務部門(産学公連携推進、生涯学習、高齢)の体制の確立と強化を図ります。

平成19年度 公立大学法人山口県立大学 機構図

【法人部門】



【大学部門】



※ **太字** は平成19年度において組織の新設や再編等を行うもの

法人

▼ 役員

理事長兼学長	江 里 健 輔
副理事長兼事務局長	伊 嶋 正 之
理事兼副学長	三 島 正 英
理事（非常勤）	辻 田 昌 次（法界寺住職）
理事（非常勤）	富 田 俣 彦（山口県商工会議所連合会専務理事）
監事（非常勤）	宇 高 壽 子（税理士）
監事（非常勤）	越 智 博（弁護士）

▼ 経営審議会（学外委員）

委 員	川 久 保 賢 隆（㈱片岡計測器サービス代表取締役）
委 員	河 野 康 志（㈱マル二代表取締役社長）
委 員	島 添 美 葉 子（消費生活アドバイザー）
委 員（法人理事）	富 田 俣 彦（山口県商工会議所連合会専務理事）
委 員	吉 村 京（山口県立大学同窓会(桜園会)会長）

▼ 教育研究評議会（学外委員）

委 員	沖 浦 初 孝（山口県高等学校長協会会長）
委 員（法人理事）	辻 田 昌 次（法界寺住職）

▼ 経営企画室

室 長	阿 野 徹 生（県からの派遣）
-----	-----------------

大 学

学 長（法人理事長）	江 里 健 輔
------------	---------

▼ 学部・大学院等

副 学 長（理 事）	三 島 正 英
国際文化学部長	松 田 理
国際文化学科長	新 川 口 喜 治
文化創造学科長	新 水 谷 由 美 子
社会福祉学部長	田 中 耕 太 郎
社会福祉学科長	加 登 田 恵 子
看護栄養学部長	新 藤 村 孝 枝
看護学科長	新 中 村 仁 志
栄養学科長	新 長 坂 祐 二（兼任）
生活科学学部長	新 長 坂 祐 二
生活環境学科長	再 小 川 雅 広
栄養学科長	再 長 坂 祐 二（兼任）
環境デザイン学科長	再 水 谷 由 美 子（兼任）
看護学部長	藤 村 孝 枝（兼任）
看護学科長	中 村 仁 志（兼任）
国際文化学研究科長	再 相 原 次 男（兼任）
国際文化学専攻長	新 安 野 早 己
健康福祉学研究科長	再 森 口 覚
健康福祉学専攻長	再 林 隆
生活健康科学専攻長	新 森 口 覚（兼任）
共通教育機構長	新 松 尾 洋（兼任）
附属図書館長	市 村 孝 雄
附属郷土文学資料センター所長	稲 田 秀 雄
附属地域共生センター所長	赤 羽 潔
情報化推進室長	市 村 孝 雄（兼任）
国際化推進室長	新 岩 野 雅 子

▼ 事務局

事務局長（法人副理事長）	伊 嶋 正 之
総務部長	新 松 下 良 三 （県からの派遣）
総務グループリーダー	梶 村 保 則 （県からの派遣）
経理グループリーダー	新 野 村 孝 美 （県からの派遣）
教育研究支援部長〔教授〕	松 尾 洋
教務グループリーダー	新 澤 田 満 （県からの派遣）
入学企画室長〔教授〕	相 原 次 男
学生支援部長〔教授〕	田 中 マキ子
学生支援グループリーダー	新 吉 山 幸 博 （県からの派遣）
キャリアサポートセンター所長	櫻 谷 宗 生

* 新 は新任 再 は再任

* 生活科学部及び看護学部は、平成19年3月31日に当該学部にて在学する者が、当該学部にて在学しなくなるまでの間、存続

A O 入試の実施について

平成19年3月29日 山口県立大学

平成20年度の入学者選抜から、選抜方法の多様化を促進するため、従来の一般選抜、特別（推薦）選抜に加え、新たにA O（アドミッション・オフィス）入試を実施します。

1 A O入試導入の趣旨

明確な志望動機を持つとともに、本学での勉学を強く希望し、一定水準以上の学業成績を修めている入学希望者のうち、様々な分野で活動し、優れた資質や顕著な実績を有すると認められた者に入学を許可する制度です。

本学の求める人材像を明確にし、書類審査及び面接等を通して、学力検査を中心とする一般選抜では十分に評価できない諸能力（学術、芸術、文化活動及びスポーツ活動等の顕著な実績）や強い勉学意欲を持った人材の選抜を目的としています。

【本学がA O入試で求める人物像（各学部学科共通）】

- ・ 本学の4つの基本理念（①人間尊重の精神、②生活者の視点の重視、③地域との共生、④国際化への対応）を理解するとともに、基礎的な学力と特定の活動分野で客観的に評価できる優れた能力や資質をもち、将来、専門科目と関連した職業世界で貢献したいという強い意志のある人物

2 募集人員

全学の定員300名の5%である15名をA O選抜定員として募集します。

【定員の内訳】

国際文化学部：国際文化学科3、文化創造学科3

社会福祉学部：社会福祉学科4

看護栄養学部：看護学科3、栄養学科2

3 出願資格

高校時代に、以下の活動分野において顕著な実績と経歴を有している者

- ① 社会的活動（ボランティア活動など）
- ② 生徒会活動
- ③ 学術・芸術・文化活動
- ④ スポーツ活動
- ⑤ その他の活動（専門技能の資格など）

4 選抜方法

① 第一次選抜（書類選抜）

出願書類（志望理由書、自己推薦書、顕著な活動実績・経歴の記録、調査書）に基づく選抜

② 第二次選抜

集団ディスカッション、小論文、プレゼンテーション、個人面接の総合評価による選抜

5 日程（平成20年度入試分）

出願期間：平成19年7月30日（月）～平成19年8月7日（火）

合格発表：平成19年9月21日（月）

参 考

▼AO（アドミッション・オフィス）とは

→入学を審査する専門スタッフの集団（事務局）Admission Office の略

一般選抜及び特別選抜においては、各学部単位で入学の審査（合否判定）を行うが、AO入試においては、大学としての評価基準に基づき、全学的視点から入学者の審査（合否判定）を行う。

Admission Office は、この審査を行う事務局の意味

▼AO入試の実施大学の状況

→平成2年に慶應義塾大学が実施してから以降、平成12年度75校、平成17年度401校（入学者約33,000人）で実施

→山口県内の10大学（平成19年開設予定の山口学芸大学を含む。）のうち、平成19年度入試でAO入試を実施したのは、7校（国立1、私立6）

大学基準協会認証評価結果について

平成19年3月29日

公立大学法人山口県立大学

山口県立大学においては、平成18年度において財団法人大学基準協会による第三者評価（認証評価）を受けていたところですが、平成19年3月13日にその結果が確定しました。

1 認証評価について

(1) 制度の概要

学校教育法の規定に基づき、大学は、教育研究、組織運営、施設設備の総合的な状況について、定期的に、文部科学大臣の認証を受けた評価機関（認証評価機関）による評価（認証評価）を受ける（平成16年4月施行）。

(2) 認証評価機関（平成18年12月現在）

- 財団法人大学基準協会（平成16年8月認証）
- 独立行政法人大学評価・学位授与機構（平成17年1月認証）
- 財団法人日本高等教育評価機構（平成17年7月認証）

(3) 認証評価の実施状況

年 度	実施大学	左の内訳					
		認証評価機関別			大学設立団体別		
		大学基準協会	大学評価学位授与機構	日本高等教育評価機構	国立	公立	私立
平16	34	34	—	—	—	6	28
平17	33	25	4	4	3	7	23
平18	73	47	10	16	7	6	60

注1：平成18年4月現在の大学数 733。

注2：平成18年度の実施大学は認証評価申請数。

2 評価結果の概要

(1) 評価実施機関

財団法人大学基準協会

(2) 評価基準日

平成17年5月1日現在

(3) 評価結果

大学基準協会の大学基準に適合していると認定する。

(4) 大学基準協会による本学への提言

ア 長所として特記すべき事項

- ①社会人が勤務しながら就学できるよう配慮していること（大学院）。
- ②社会貢献に関わる事業を推進する「地域共生センター」において多種多様な事業を展開していること（全学）。
- ③ボランティア活動によって活発な地域貢献を図っていること（社会福祉学部）。

イ 助言

- ①学際的統合、学問体系の構築に向けたカリキュラムの編成（大学院のうち健康福祉学研究科）
- ②1年間に履修登録できる単位数の上限の設定（全学部）
- ③授業評価結果の活用による教育方法の改善（大学院）
- ④国際的な教育・研究交流の活性化（大学院）
- ⑤教員の海外研修機会の確保（全学）
- ⑥施設設備のバリアフリー化対策の充実（全学）

ウ 勧告（大学基準協会として義務的に改善を求める事項）

なし

3 次回認証評価

平成23年度を予定。その際、助言事項に関する対応結果をあわせて報告。

『YPUクッキー』の開発について

平成19年3月29日 山口県立大学

本学では、栄養学科の人見助教授を中心に、学生と教員が一体となって山口県の農産物を使ったクッキーの開発に取り組み、洋菓子店ジェネレ(山口市)の協力を得て、このたび山口県立大学オリジナル『YPUクッキー』が完成しました。

次の4つの味が楽しめて、いずれも生地には県産小麦ニシノカオリを使用しています。

- | | |
|------------------|---------------|
| ① 長州クッキー | (山口県のタケノコを使用) |
| ② ごぼうクッキー | (美東町のごぼうを使用) |
| ③ はなっキー | (はなっこりーを使用) |
| ④ O u k a n [桜柑] | (萩市の夏みかんを使用) |



【販売価格(税込み)】

- 12袋入り(4種×3袋) 1,000円 [写真]
- 4袋入り(4種×1袋) 350円
- 1袋(1種:2枚入り) 90円

今後、大学行事等における販売など、この『YPUクッキー』を活用し、本学の持つ「大学力」をアピールしていくとともに、山口県の農産品の消費拡大の一助となることを期待しています。

4月1日から、次のとおり販売を開始します。

- | | | |
|------------------------|------------|------------------|
| ・「お菓子のジェネレ」(店頭販売) | 山口市錦町5-25 | TEL 083-932-0180 |
| ※大量注文については、事前に予約が必要です。 | | |
| ・「山口県立大学売店」(注文販売) | 山口市桜島3-2-1 | TEL 083-928-0531 |

(参考) 開発経緯等

- 18年8月 本学の研究創作活動助成事業に採用決定(助成額21万円)
- 10月 学生からレシピ公募のコンテスト開催
- 12月 コンテスト入賞者決定
- 19年2月 パッケージ・デザイン等検討
- 3月 クッキー発売(3月16日卒業式にて限定50箱)
- 4月 お菓子のジェネレ、山口県立大学売店にて販売開始